

この研究分科会は、現在大きく分けて次の5つの活動を行なっています。

- 1、 1、 日本発達心理学会大会、その他関連学会におけるシンポジウムまたはラウンドテーブルの企画・実施
- 2、 2、 毎月定例の研究会の開催
- 3、 3、 サマーカンファレンスの開催
- 4、 4、 機関紙の発行
- 5、 5、 学術書の企画と発行

ここでは主として、研究会、サマーカンファレンス、機関誌について簡単に説明します。研究会は、毎月一度土曜日に3時間程度早稲田大学の本部キャンパスで行なわれています。内容は、外国文献の講読と会員の研究発表で、隔月でその二つの内容を交互に行なうことになっています。ただし、外国文献の購読については、研究会企画の出版の計画もある関係で現在は一時中断いたしております。個々人の研究では、参加者の修士論文・博士論文(予定のものも含みます)、学会での研究報告、学術誌への投稿論文などを発表し、議論をたたかわせています。

サマーカンファレンスは、毎年夏に、東京を離れた場所で動機づけに関するシンポジウムを開催しています。2001年8月が分科会としては最初の会でありました。その後、鳥羽市、金沢市、名古屋市で行われてきました。このシンポジウムは、そこで完結するのではなく、翌年の3月に行われる日本発達心理学会で企画されるシンポジウムに引き継がれます。シンポジウムのテーマは、担当になった若い研究者たちが会員の希望を勘案して決められます。全国各地から30名から50名程度の参加者があり、比較的小人数ですからインテンシブで突っ込んだ議論がたたかわされます。

機関紙は、「ソーシャル・モチベーション研究」というタイトルで、毎年一巻が発行されることになっています。投稿論文と毎月の研究会での発表内容、サマーカンファレンスでの発表内容などから構成されています。投稿論文は、査読が義務付けられ、質の高い論文を掲載することを目指しています。2002年8月には、第一巻が発行されました。現在、第三巻が印刷中です。

現在会員は、日本全国に散らばっていて50名を超えています。毎月の研究会には、東京及び近県の方々が毎回10～15名程度参加するといった感じです。時には東京近県以外の人も参加されることもありますし、参加されることは大歓迎です。なお、関西にも2004年度から同志社大学で研究会が行われるようになりました。

以上、簡単に本分科会の紹介をさせていただきました。

2005年4月
日本発心理学会
Social Motivation 研究分科会
会長 青柳 肇